1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 3 月 26 日発行　SSKU　増刊通巻第 6050 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-3337

シャケ Zo くん

# SSKU わくわくかん リボン便り

http://www.wakuwakukan.net/

2018年4月号　No.204

**？？なぜリボン？？**

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

## 仕事に障害者を合わせるのではなく、障害者に仕事を！

右の詩は、1979年に三一書房から出版した『障害者と職業選択』に掲載したものである。当時、私は都立城南養護学校のスクールバスの添乗員をし、そこで出会った重度の知的・身体障害の中学部 2 年生、新聞を破るのが好きな少年についての詩である。

また、アメリカの地方都市のことで最近聞いた話であるが、はさみで紙を切ることが好きな知的障害者（自閉症）の青年がいて、彼が、コミュニティマガジンの残部処理の仕事にはさみで切って、それで賃金をもらっているというのである。

５年ほど前、私は、第４回アジア障害者就労国際交流大会で台湾に行った際、庇護工場・社会的企業を運営している勝利財団が新北市で経営しているファミリーマートを訪ねた。従業員は 16 人のうち９人が障害者で、品物を運んだり陳列するのは知的、精神障害者、レジ等は身体、聴覚障害者であった。

ところで私が驚いたのは、店に入るとすぐ、女の人が大きな声で話しかけてきた。中国語なので何を言っているかわからなかったが、それは接客挨拶である。説明によると、中度の知的障害をもつ女性であった。それがどれほど売り上げに貢献するかはわからないが、勝利財団ではそうしているのである。日本では、障害も個性とはみず、保護して隠そうとする。

経済は何のために？経済のための人間なのか、それとも人間のための経済なのか。カントは、人間は手段であると同時に目的である、と説いている。

**（副理事長　堀　利和）**

### 新聞を破ろう！

**―私が出会った少年、Ｈ君へ―**

目を細めて
「精薄児」と呼ばれても
少年はきっと
彼らを
「超人」とも「賢者」ともよばないだろう
少年は新聞を破ることが好きな
「精薄児」ではない
少年は新聞を破ることが好きな
「超人」ではない
少年は新聞を破ることが好きな
少年である
新聞は
印刷されて　配達されて
読まれて　破られて
一生を終える
新聞は「超人」も「精薄児」も意識しない

少年よ　きみが好きな
新聞を破ることは　職業ではない
けれども少年よ　それを職業に変えることはできる！
もし彼らが「超人」や「賢者」であるなら

だから少年よ　それまで
彼らが成長するまで
新聞を破いていよう

**＜わくわくかん４月予定表＞**

- ✧ 4 月 14 日（土）はたらっくす　16:00～（自立訓練室）
- ✧ 4 月 14～15 日　マラソントーク＠深谷　籠原/浦和（共同連関東・ワーカーズコープ）
- ✧ 4 月 18 日（水）公共住宅、民間住宅―改正住宅セーフティネット法１年　12:30～参議院会館
- ✧ 4 月 23 日（月）現場協議会　16:30～（スカイブリッジ）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 3 月 26 日発行　SSKU　増刊通巻第 6050 号

# わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

## 簡単なレタス炒めの作り方

＜材料＞　レタス・ちりめんじゃこ・塩・ゴマ油
①レタスは食べやすい大きさに手でちぎる
②ゴマ油でじゃこを炒め、レタスを加える
③塩で味を調え出来上がり

### おいしくいただくコツ
### 手でちぎり変色を防ぐ

レタスは金物を嫌うと言い、刃物で切ると断面が茶色に変色してしまいます。手でちぎることによって断面が粗くなり、ドレッシングが絡みやすくなります。

### 油で炒めて吸収力アップ

レタス類はカルシウムを多く含み、また品種によってはカロテンが豊富なものもあるので油やたんぱく質との組み合わせは効果的です。

## 淡色野菜　レタス

### イライラを鎮めてリラックス効果あり

一年中スーパーに出回っているレタスですが、特においしい春レタスの季節がやってきました。全体の約９５％が水分で、ビタミンC、E、カロテン、カルシウム、カリウム、鉄、亜鉛が含まれ、栄養豊富です。

レタスの茎を切ると、白い乳状の液が出ますが、これはサポニン様物質といって、食欲を増進し、肝臓や腎臓の機能を高める働きがあります。しかもサポニン様物質には、鎮静、催眠の効果も！またカルシウムはイライラを鎮めるので、お疲れの方は炒め物、鍋、スープなどの加熱調理をして、たっぷり召しあがってみてはいかがでしょうか。

## 豊芯会の A 型事業所の見学・実習に
### 参考にできるところはどんどん活用へ

２月 13 日に、９時～5 時で豊島区の豊芯会の就労継続支援 A 型事業所に見学・実習に行きました。実習の目的は、開設して 7 年目になるわくわく配食サービスが赤字解消を目指していきたいという思いでした。規模ではわくわく配食とは、かなり違いますが参考になる点をまとめました。

**①年間売上 5 千万円　売上の柱が３本**

売上内訳：①昼は 300 食、夕は 50 食～60 食。②病院、企業へのお弁当配達（特別弁当を含む）③大学や企業などのオードブルと高齢の方は、不安定になりやすいため高齢の方以外にも、収入の柱を作っている。

**②スタッフ体制　料理長、調理師など充実**

常勤者４名(内主任３名)、当事者常勤１名(40 時間)、非常勤数名、当事者スタッフ 15 名程度／日（シフト制）。常勤スタッフ４名の内３名は、料理を中心に行い、一人は個別支援計画と顧客管理と請求事務を行う。業務を分業化している点と調理経験者を配置しているため、様々な注文に対応できる体制が可能になっていると感じる。当事者スタッフの仕事は厨房内が中心の印象がありました。

**③支出を抑える・効率の良い仕込み工夫、厨房内の見える化**

魚も築地より、仕入れてさばき、真空パックができる機材があり仕込んだ食材は、どんどん真空パックにして冷凍・冷蔵していく。オードブルを受けることで、食材も無駄なく使えるという支出も抑える工夫をしている。仕込む内容を、貼り出してあり次々仕込みをする。

N.T

**④当事者スタッフが、責任感を持ち休みなく仕事を行う**

当事者スタッフが責任を持ち業務を分担しながら当事者同士で相談しながら進めていくという場面が多く、スタッフは状況把握と適宜声掛けをしている。そうした、責任感もあるためか、精神障がいの方が多い事業所だが、ほとんど休まない状況。採用する当事者スタッフはある程度、働く耐性のある方で調理を希望する場合は調理経験者などに限っている。

＊参考にできるところは、どんどんしていきたいと思います。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 3 月 26 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6050 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

# 通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

## ＜外出報告＞築地市場

２月１４日、響に集合後、徒歩で王子駅へ。
そして王子駅から京浜東北線で東京駅へ。
東京駅の丸の内南口を出て、都バスの晴海埠頭行きに乗り換えて築地に向かいました。
築地に到着後、場外市場の前で集合写真をとりました。ランチでまぐろを食べることになり、お店を探しました。
「双こい家」と言う人気店で食べました。みんなそれぞれ食べたいメニューでオーダーしました。大とろと中とろがのったとてもおいしい丼ぶりを頂きました。
食後におやつタイム、玉子焼きの食べ歩き、抹茶アイス、まぐろ焼きなど、それぞれ食べたい物を食べました。
途中に約１名、築地のおじさんに魚を買ってとせがまれました。そして断わりきれずに棒ダラを買っていました。帰り道に築地本願寺にお参りして帰りました。
（H.S・O.Y）

## ＜ミニ外出＞王子稲荷凧市

２月１９日（月）、ミニ外出で王子稲荷の凧市に行きました。天候は晴れていて、実にすがすがしかったです。
凧市とは、江戸時代からの行事です。当時江戸の町はよく火事に見舞われ、風が大火事につながることから、風を切って上がる凧を火事除けのお守りにと、民衆が同神社の奴凧を「火防凧（ひぶせのたこ）」として買い求めたのが始まりです。当日は響から、王子稲荷まで歩いていき、参拝をしました。スタッフ、K さんが凧を買ってにぎわいました。
メンバーI さんが露店で五塀餅と大判焼きを食べ、私０は、お好み焼きを食べました。
特にＩさんは五塀餅の感想として、つぶつぶしておいしく、大判焼きは栗が入っていておいしかったそうです。私０はお好み焼きの量が多くて大変でした。
その他の皆さんも色々なものを召し上がり、とても満足していました。帰りもスムーズに響に戻り、楽しい一日でした。
（0.K ， I.Y）

## ＜プチパーティー報告＞ワッフルを食べました！

２月２６日（月）W さんの送別会を兼ねて、プチパーティーを行いました。今回はコージーコーナーでワッフルを買ってきました。ワッフルの中身はカスタード、マロン、おぐら等です。事前に皆の希望をホワイトボードに書き出したところ、頭文字がオ・カ・マとなってしまいました（笑）。十条銀座まで出向いたのですが、パーティーで飲む飲み物が見当たらず探すのに苦労しました。
結局ファミリーマートでパックの紅茶３つとコーラを調達しました。無事パーティーも始まり、皆でおいしく頂きました。最後に W さんの別れの挨拶があり終了。終了後、T さんが余ったワッフルをおかわりしていました。
（A.K・Y.H）

## 節分イベント＜恵方巻き＆豆まき＞

### ＜節分イベント＞

２月２日（金）に節分イベントを行いました。
午前中は恵方巻き作り。沢山の具材を用意＆調理しました。
卵焼き、かんぴょう、カニかま等々、何種類もの具材が出来あがりました。

メンバーはそれぞれ好きな物を選び、私はのり巻きへ…上手に巻ける人もいれば、苦戦している人もいました。本当に太い太巻きになりましたよ‼お昼休みにみんなで黙々と食べました。とても美味しかったです。

### ＜豆まき＞

午後は豆まき。なぜかお腹のでかい人が鬼役です。（それは当然か…）バットを金棒の代わりにして、少し迫力を出そうとしていました。メンバーは「鬼は外！福は内！」と豆を投げつけます。特にスタッフ K さんは、ある意味、日頃のストレスを発散するかのごとく投げていました。（恐…）
最後に豆を食べて無事イベントは終了しました。
（O.M）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 3 月 26 日発行　SSKU　増刊通巻第 6050 号

就労移行支援事業

# リボーンプロジェクト

*〒114-0032　東京都北区中十条 1－2－18*
*北区障害者福祉センター４F　Tel：03-5963-6888*

## 講座　睡眠について

2 月 24 日に北とぴあで行われた北区地域精神保健福祉講座【夜はぐっすり　昼もスッキリ～さわとんの睡眠講座～】に参加しました。講師はカウンセラーであり睡眠健康指導士上級の資格をお持ちの澤登和夫氏でした。

**＜参加者の感想＞**

◆ 睡眠に関しては、私自身前々から悩んでいて、今回の講座はぜひ聞きたいと思っていました。普段の講演ではひたすら話を聴くだけの講演が多い中、今回の講師の先生がこちらに問いかけてくる場面が多く、参加型の講演だったので話の内容がよく分かりました。とても勉強になりました。これから参考にしていきたいです。(K.Y)

◆ 睡眠に大きな問題を抱えて苦しんでいたので、参加を希望していました。予想よりもためになる話で、聴けてよかったと思います。アドバイスもいくつか実行して試しているところで、睡眠リズムを改善して生活を立て直したいです。(K.S)

◆ さわとん先生の話を聞いて、自分が気をつけている事がだいたい同じような事でしたので、とても参考になりました。ただカーテンは開ける事が出来ないなぁと思いました。(I.Y)

◆ 眠りを良くする 5 つのポイント
　１．ストレスとうまく付き合う。
　２．部屋のカーテンを１０cm でいいので開けて寝よう。（光が大事）
　３．寝る時間より起きる時間にこだわろう。
　４．テレビニュースは朝に見よう。
　５．眠れないときは一度布団から出よう。
　5 つのポイントは、あたりまえのようでなかなか実践できない事ですが、実践して対処して行こうと思います。(S.H)

◆ うつの人の眠れない状態の事を少し言ってましたが、うつの眠れない状態が続いてもそれは症状であって、眠れなくても命に関わる事ではないと言うのを見た事がある。実際見てそう思う。(Y.E)

◆ 今現在は、睡眠で困ってはいないが、将来不眠などで困る事があるかもしれないと思い参加した。また、不眠で困っている方がとても多いので、知識を持っていると、将来役に立つことがあるかもしれないと思う。(K.H)

◆ 自分には睡眠時間が足りないと思っていましたが、19~30 歳の睡眠時間より少し多いことが分かりました。この講座を聞くまで少し不安がありましたが、聞いておいて良かったです。(K.S)

◆ 勉強になりました。(O.T)

## 「いいところ探し」

３月９日（金）の研修で『いいところ探し』を行いました。メンバーの氏名が入っている用紙を全員で回して、その人のいいところを書きだすものです。当日参加できなかった訓練生や、職員の分も書いてもらいました。

＜訓練生の感想＞

・他の方のことを知らないで自分の判断で書くのは少し抵抗があるので書けませんでしたが、良いところを探せるようがんばって行きたいです。（U.F）

・自分はこんな風に他の人から見られているんだとわかり、うれしかったです。（S.A）

・ちょっとてれくさいです。（O.T）

・いいとこ探しはもう３回目になりますが、３回とも同じようないいところもあれば、新しいいいところも見つかって面白いなと思いました。（K.Y）

・人に良く思われていると知るだけでも自分の自身やはげみになります。（S.H）

・自分なりに業務に取り組んでいることも、一生懸命努力していると書いて下さった方もいたので、これからもそういう姿勢で仕事をしていきたいと思います。（I.Y）

・自分の良いところは、自分でも気がつかないことも多いので、今回は自分の事を再認識するという意味で良い機会だと思う。（K.H）

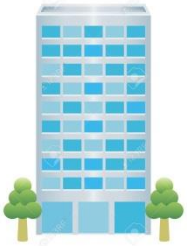
### リボーンプロジェクト

- **人に優しくなれるところ。**
- **仲間がいる。**
- **苦楽があるところ。**
- **色々な事が学べるところ。**
- **就職するための色んな知識を学ばせてくれるところ。**
- **優しい人ばかりです。**
- **スタッフが皆接しやすくて優秀。**
- **利用者さんの事をそれぞれ考えて下さり優しくアドバイスして、就職する事に前向きにさせてくださいます。**
- **雰囲気が明るく、和気あいあいとしているところ。**
- **スタッフの熱意があり、優しい。**
- **プログラムや講座が充実している。**
- **優しい人ばかりで安心する、落ち着く場所**

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 1 月 28 日発行　SSKU　通巻第 5996 号

## 2018 年度　わくわくかん　家族懇談会のお知らせ

開催日時や内容が決まり次第、別途ご案内にてお知らせいたします。
連 絡 先：　TEL　03−5963−6888　FAX　03−3906−9997



### 家族懇談会が２回目の見学会

# 大手の「共に働く」オープンな現場

## 特例子会社もたず雇用率は 5%越え

2 月 27 日の家族懇談会では、今年度 2 回目となる事業所見学を行いました。今回は、某大手企業のバックヤード業務の見学をさせていただきました。（企業様の意向で、社名は伏せさせていただきます）

企業理念に「共に働き、共に生きる」を掲げ、1 店舗 1 名の障がい者雇用（大型店舗では 1 店舗 2 名以上）に取り組まれ、グループ全体で 5%（2017 年 6 月）を超える雇用率という驚きの成果を出されていました。障がい種別では、作業内容的に知的障がいの方がメインではありますが、身体や精神の障がいをお持ちの方も雇用しており、それぞれが出来ることに取り組んでいらっしゃる状況とのことでした。また、特例子会社は持たず、同じ空間で働くことが大切だとも考えていらっしゃるとのことで、本当に「共に働く」ということを実践されているんだと感じました。また、その人に合う仕事を見つけ、役割を持ってもらうという考え方にも非常に好感を持ちました。やはり、自分の役割が与えられるということは、やりがいや喜び、仕事を続けるモチベーションにも大きな影響が出てきます。企業側でも採用した方に長く続けてもらうための努力にも非常に関心いたしました。

この数年で見ても、障がい者雇用のやり方が多種多様になってきました。特に最近増えているのが、障がい者雇用専門の部署やチームを作り、支援員を配置した特例子会社みたいなスタイルです。同じ病気や障がいを持った仲間が近くにいるのは安心感に繋がるとは思いますが、一方で隔離された状況のようにも見えます。病気や障がいにかかわらず、人それぞれに個性や強みがあり、苦手なところや弱みもあります。そこをお互いで支え合うからこそ、仕事が成り立つのではないでしょうか。しかし、企業にとっては、まとめて雇用する方が雇用管理がしやすいという背景もあるので、この考え方が広く浸透するにはまだまだ険しい道のりのようにも感じています。

4 月より雇用率が上昇し、今後も障がい者雇用が促進されていくことは明らかです。今回訪問させていただいた某企業様のような、みんなが一体感を持ちながら働けるような環境を提供下さる企業様が増えることを願うばかりです。

また、今年度の家族懇談会に尽きましても、皆様からのご理解とご協力を賜りまして、無事に 1 年間を終えることが出来ましたこと、改めて感謝申し上げます。次年度も引き続き、ご家族の皆様にも有益な情報提供が出来るように努めて参りたいと思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

---

## ３月はたらっくす報告

3 月のはたらっくすは 10 日（土）に参加者 5 名でわくわくかんで行われました。参加者の方が少しでも解放された思いになって、就労に繋がって欲しいと思います。

私はあるスーパーで清掃とお惣菜・青果部門で 15 年働きましたが、大変に厳しい世界に触れました。当時は「これが現実だ」と信じていました。例えば調子が悪くて「休ませて下さい」と店長に電話しよう物ならば、「バカヤロー！」と怒鳴られるか、いきなりガチャンと切られました。健常者もそんな対応を受けたら脅えると思いますが、とても弱気で社会経験のない私達精神障害者は大変に脅えてしまいます。そんな状態で 15 年勤めて私の中に「電話すると怒られるのだ」という刷り込みがはっきり出来ました。その後も自分の仕事先や所属団体への電話が苦手です。だからピアカンで電話を取る時はいつも「ハイッ！宮澤ですッ！」とワザと元気に出て、相手に好印象を与えようと無理をします。これは「トラウマ」でしょうか。

次回のはたらっくすは、年度変わりの初回 4 月 14 日（土）16〜18 時にわくわくかんで行われます。就労している人と就労したい人が対象です。時間内のいつに来られても、帰られても自由です。あなたの参加をお待ちしています。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 3 月 26 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6050 号

## ソーネおおぞね　完成記念式典

パンとみんなとしげんカフェ「ソーネおおぞね」の完成記念式典が 3 月 23 日午前 11 時から名古屋市大曽根で開かれた。「広さは 300 坪、1 千へーベ」とわっぱの会の斎藤理事縣三理事長が紹介、1 年半前から大曽根併存住宅の空き室を回収して〈分散型〉サービス付き高齢者向け住宅に変える話があり、障がいや仕事に困っている人の交流の場として、スーパーの跡地に「しげんカフェ」をやりたいとの思いがここに実現しスタートする。「ソーネおおぞね」は障がい者のＡ型として働く場所にし、「ふれあう共生型福祉」として地域の交流の場にしたいとあいさつした。

「すごーい！」インパクトある多彩な室内設計にあちこちから感嘆の声が聞こえる。3 月 31 日からのオープニングイベントにもさまざまな文化企画が並んでいる。1971 年、たった 3 人の共同生活から始まった共同連の社会的事業所をけん引するわっぱの会の新しい実験がここにスタートした。

## 「しげんカフェ」関東圏にも動き

昨年５月のわくわくかんの総会において、愛知県津島市で「しげんカフェ」の事業を運営されている浅井さんをお呼びして講演会を開催しましたが、その講演会に参加した団体から関東圏においても新しい動きが生まれてきています。

「しげんカフェ」は、古紙や古着などのいわゆる資源ごみを地域住民から買い取り、それをリサイクル業者に売却して収益を上げる事業で、コミュニティカフェを併設して地域住民が気軽に集える場所を創り出しています。

地域住民に仕分け済みの資源を持ってきてもらい、リサイクル業者に資源を取りに来てもらうことで、収集運搬や保管のコストを最小限に抑え、収益性を確保しています。カフェをはじめとした他業種と組み合わせることで、今後の市民事業のモデルとなりうる大きな可能性を持っています。

「しげんカフェ」のポイントの一つは、非営利のフランチャイズ形態をとっていて、同じ志を持った団体がフランチャイズに加入することで、リサイクル業者への資源の売却条件を同じにするシステムを採っていることです。これにより、一つ一つの加入団体は弱小であったとしても、フランチャイズ全体としての資源買取量を増やし、価格交渉力を高めることが可能になっています。

現在の「しげんカフェ」のフランチャイズ団体は、愛知県などの中京圏に限定されていますが、関東圏でも同じ仕組みを創り出すことはできると思われます。資源ごみの行政回収の状況、リサイクル業者の状況、地域住民の車の使用状況など、様々な条件が中京圏と関東圏では異なっていますが、工夫次第で十分に打開できるはずです。

昨年わくわくかんの講演会に参加した団体のうち、荒川区にある企業組合あうんでは、まだ試験段階ではありますが、「しげんカフェ」と同じ条件でのリサイクル業者への資源売却を、実際に始めています。「しげんカフェ」に関心を持っている市民運動団体は数多く、生活クラブ生協のグループ団体を中心に、浅井さんを囲んでの勉強会が活発に行われていて、愛知県への見学ツアーも企画されたりしています。

こうした新しい動きの中から、今後「しげんカフェ」のフランチャイズに加入し、市民事業を拡大していこうという団体が、関東圏で出てくることでしょう。わくわくかんでの講演会が一つの契機になったことは、素晴らしいことだと思います。

---

## 現場からのひとこと⑩

### 偶然講習会が縁で家から５分！

私は普段、赤羽のスカイブリッジで事務のお仕事をしています。職員の給与計算関係から始まり、書類作成をしたり、銀行へ行ったり、区役所で手続きをしたり、東京都へ報告書類を作ったり…と、わくわくかんには様々な事業所があり、そこには色々な職種がありますが、私のお仕事は一般の企業の事務と変わらないかもしれません。

わくわくかんでお仕事をすることになったきっかけは、偶然の重なった素敵なご縁によるものでした。ある講習会に参加をしたとき、私の隣に座っていたのが事務局長である、山下さんでした。３日間の講習中ずっと席は変わらなかったため、自然と会話が弾み、色々なお話をしました。その中でわくわくかんで事務を募集しているというお話をお聞きしました。詳しく聞いていくと…赤羽のスカイブリッジは私の自宅から自転車で５分！勤務時間や仕事内容も今の私の現状を理解してくださった上で、無理なく出来るよう配慮して頂けるとの事。もう迷いなく「是非お願いします！」と言っていました。

偶然ってあるんだな、と思った出来事でした。今こうやって仕事も育児もプライベートも全て楽しく出来ているのは、この時のおかげです。山下さんに出会ったこのご縁とわくわくかんでの繋がりをこれからも大切にしていきたいです。そして、わくわくかんは実に楽しい職場です。毎日色々な事が起こります。みなさんと直接顔を合わせることは少ないですが、これからも微力ながら陰からお手伝いをしていければと思っています。　（M.H）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 3 月 26 日発行　SSKU　増刊通巻第 6050 号

# 深谷で共同連マラソントーク 4 月 14～15 日

共同連のマラソントーク in 深谷は 4 月 14～15 日、埼玉県深谷市と浦和でワーカーズコープ連合会との共催で開かれます。

14 日は籠原駅に集合、ワーカーズコープ深谷豆腐工房を見学する。そのあと「深谷だんらん」見学、6 次産業化実践現場（大豆生産・味噌作り）を見たあと討論、七つの梅にて深谷まちづくりを学びます。

4 月 15 日はマラソントーク、開催あいさつを共同連堀代表から、続いて共同連活動について斎藤共同連事務局長が行います。午後からシンポジウム「共同連とワーカーズ今後の連帯と展望について」がコーディネーター白杉さん、ワーカーズ玉木さんらで行なわれる。

今回は、障がい者が働くワーカーズコープの現場と交流、この間、共同連と労協がエールを交す社会的協同組合の日本版をめざす議論も期待されている。

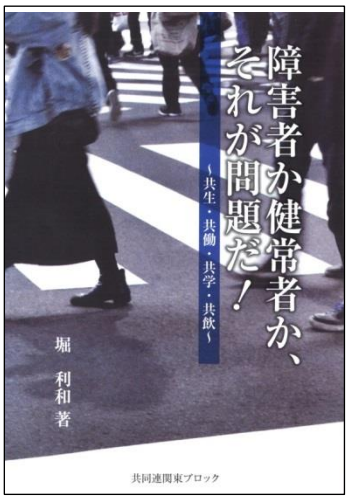
---

**堀利和さんが共同連関東ブロックから出版**

## 『障害者か健常者か、それが問題だ！ ～共生・共働・共学・共飲～』

共同連関東ブロック（堀合研二郎代表）の結成を記念して生まれたこの冊子は、現代日本社会が失った「共」を、いろんな場面から引き出して「ウーン」とうならせてくれる。なかでも「共生」では重度障害者の殺傷事件として起こった「津久井やまゆり園事件」を今年 1 月、神奈川の部落解放同盟の第 3 回差別と人権を考える市民講演会での話を取り上げている。

優生思想の確信犯となっていった被告、社会から＜他者化＞されていた被害者と加害者、家族はなぜわが子を「匿名」にしたのか、そこに日本の健常者中心の市民社会の問題と課題がある。まもなく三回忌を迎えようとしている中で、放置されている重度障害者の「社会的入院」を「地域」に返して「共に働き共に暮らす」市民社会への作り替えの議論が問われている。



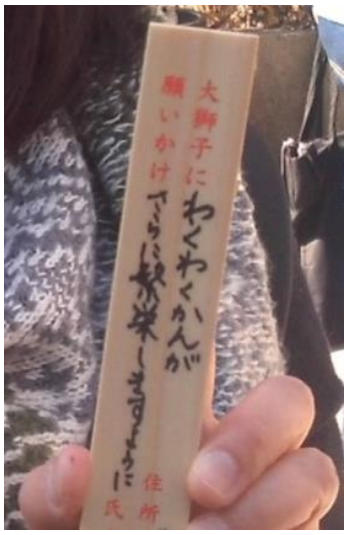

「共働」は、共同連がめざす社会的事業所の立ち位置について語る。労働包摂型の社会的事業所は「連帯型」をめざす。なお本の希望者はわくわくかんでも取り扱っています。

---

# 修行の旅へ…

ひびき
栗田眞紀

2015 年の秋、「精神障がい者サポーター養成講座」に参加したのがわくわくかんとの出会いでした。2016 年 1 月に当事者の会「はるじおん」のボランティアに加えていただき、同年 10 月にボランティア響会（ひびき）の非常勤職員として採用していただきました。この間、通信制大学のスクーリングに通い、毎月３科目ずつ試験を受け、大学院の受験勉強と並行して卒論を書き、大学卒業と院試合格を立て続けに実現することができました。自分なりに走り続けた２年半。その隣にはいつもわくわくかんがありました。




ひびきにいて最もうれしかった瞬間のひとつは、メンバーさんが初めて笑顔を見せてくださる瞬間でした。何度経験してもこれはじーんときました。

メンバーさんが少しでもリラックスできるように、少しでも笑ってくれるように…悩んだ末にたどり着いた結論は、自分自身が笑うことでした。いい歳していっぱいやんちゃして、笑い転げて、床に寝転がらない日はないくらい笑っていました。（メンバーさんに「栗田といえば？」と尋ねると、ほぼ全員「うるさい」と回答なさると思います…^_^;）

この４月から２年間、臨床心理士となるための修行の旅へ、大学院に行ってきます。ビッグになって（横にではありません）、またわくわくかんへ戻ってきたいと思っています…上司であるK様に採用面接で落とされなければ…（笑）

大学院を卒業する頃には、ひびきのメンバーさんやリボーンの訓練生さんはもちろんのこと、スタッフもステップアップしてわくわくかんを卒業しているかもしれません。この仕事も人生も、成長してナンボ。みなさまに負けないよう、ますます精進を重ねる所存です。

（＊写真は今年２月の外出プログラム。築地波除神社に願掛けのお札を納めてきました）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 3 月 26 日発行　SSKU　増刊通巻第 6050 号

## ◂映画『空海』を観て感じた事▸

映画『空海』を観てきた。日中共同制作で１５０億円もの巨額を投じた作品と聞いていた。どんなものだろうか？と、素朴に考えていた。しかし、その出来映えは映像や特殊技術は確かにすごかったが、史実、とりわけ空海のおかれていた時代的背景や、密教に対する理解は本当にお粗末だった。

例えば弘法大師空海は留学生の身分で入唐している。留学生は２０年の滞在を義務として、最澄の還学生とは対称的にすぐさま帰国が許される身分ではない。腰を据えて、唐国の文化を学び、長期に渡って滞在しなければならないのである。映画の空海は情けないことに、密教を学ぼうとして長安の青竜寺の恵果和尚を訪ねたが、こばまれて帰国すると語っている。そんなことはできないのである。確かに結果だけを見れば空海は二年で帰国している。しかしそれは、青竜寺で恵果和尚に師事することができ、なおかつその正統な密教の伝承者であることが認められて、しかもその師恵果が入滅してしまったからである。

恵果は入滅を前にして「早く郷国に帰って以て国家に奉り、天下に流布して蒼生の福を増せ。然れば則ち四海泰く、万人楽しまん。これを則ち仏恩を報じ、師徳を報ず。国のためには忠、家においては孝なり。義明供奉は此処にして伝えん。汝はそれ行きて、これを東国に伝えよ。努力よ努力よ」と空海に遺言したという。そういう重たい師の言葉があって、空海は２０年の留学を２年の滞在で帰国した。これは天皇の命令に違反するもので、本来重罪である。実際、空海はおびただしい密教の秘法、法具、経書などを日本に初めて請来したにもかかわらず、帰国してもすぐに入京を許されなかった。それが、映画では軽く描かれていて、当時の入唐留学の命をかけた求法の精神が全く伝わってこない。

**＜私の中の空海＞像と離反**

**宇宙や生命・精神の重厚な思想体系**

そして、密教に対する描写も映画では幻術の類と混同してしまっている。密教とは時と場所によってその定義が難しいが、人々に幻をみせる術ではない。弘法大師空海が請来した純粋密教とは一つの重厚な思想体系である。幻というより逆にしっかりと現実に則したものの見方、宇宙や生命のあり方を包摂した当時としては完成度の高い思想であり、宗教である。幻ではない。それは最近の仁和寺の仏像や曼荼羅によっても示されたところだ。　（H.E）

就労支援センター北わくわくかん
登録者（2018 年２月末）739 名
就職者 ３名（事務・映像編集・コールセンター）

### 先月　ご協力いただいた皆様

東京都労働局・東京都精神保健福祉民間団体協議会・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ハローワーク王子・池袋・飯田橋・東京障害者職業センター・（社福）月山福祉会・NPO 法人太陽と緑の会・NPO 法人あしたや共働企画・シャロームの家・結・職場参加を進める会・東京都障がい者就業支援事業所の会・東京しごと財団・町田の丘学園・㈱ECA・戸田中央看護専門学校・NPO 法人共生ネットワーク・わっぱの会・北区子どもの遊び場をつくる会

等、お世話になりました。

**グループホームわくわくかん**

**現在、男性１名・女性４名の方が入居中です。通常、GH の住居は非公開になっているため、近所の人でも解りません。しかし女性ホームのお向かいの K さんは、職員がある日訪問した際に「ここって何かの施設？」と言い、いつも入居者の皆を見守ってくれています。必ず入居者の皆へ挨拶をし、職員が訪問にいく度に、その時の様子を聞かせてくれます。ご高齢にも関わらず、杖を突いて歩いている I さんの荷物を一緒に運んだり、暑い盛りには、玄関前の草むしりもしてくれました。先日、「最近会わないから、人事異動があったのかと思った…」。入居者だけでなく職員の事も見守ってくださっている事に、今まで気付かなかった自分が恥ずかしかったです。**

▼編集後記▼

私のところに届く機関紙に「還元総額は 1600 万円！」とある泉南生活協同組合の『森のこえ　風のうた』が目にとまった。1 月 1 週から 8 週間にわたって実施した組合員への還元総額とある。協同組合にはこうした還元や利用分量割り戻しという独特の仕組みがある。企業なら利益として経営者で山分けするが、協同組合では組合員から取り過ぎたとして還元するのだ。これはこれからの社会的事業を起こす場合、協同で取り組んだ成果を共有することで連帯を強めるとても注視してよい仕組みだ。この生協の起こりは 1950 年、大阪泉南郡岬町で公衆浴場を営むことから始まり、1975 年から供給事業でオレンジコープの名で親しまれた。2000 年からは介護保険事業と高齢者の住宅事業と幅を広げて活躍する。笠原理事長は「その時代時代に地域の組合員が必要とする事業に取り組んできた」と胸を張る。

発行所　郵便番号 157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）